

ところ会員各位

ところ会 1 月行事案内

平成 28 年度、第 1 回テーマ：川越七福神

平成 28 年最初の行事は今年も七福神めぐりをと考え、小江戸川越七福神めぐりを企画してみました。

記

■日 時：平成 28 年 1 月 15 日（金）

西武新宿線 所沢駅発 9 時 20 分の本川越行きに乗車ください。

■集合場所、時間：西武線新宿線本川越駅改札口、9 時 45 分集合

■見学場所及び時間（スイカかパスモを携行下さい、チャージもね）

本川越駅⇒第 1 番：妙善寺(毘沙門天)⇒第 2 番：天然寺(寿老人)⇒
中院 ⇒ 仙波東照宮 ⇒第 3 番：喜多院(大黒天)⇒第 4 番：成田山川越
別院本行院(恵比寿神)⇒昼食(12:45～)⇒第 5 番：蓮馨寺(福祿寿)⇒
第 6 番：見立寺(布袋尊)⇒第 7 番：妙昌寺(弁財天)⇒ティー・タイム(喫
茶：マイウェイ、希望者のみ)⇒本川越駅（15:00 頃を予定）

コース全長 約 7.5km

■昼食：12:45～浪漫茶房右門 1300 円

「町家の膳」、「いも恋」1 個付き

「いも恋」は、さつまいもとつぶ餡を山芋ともち粉の生地でやさしく包み、昔なつかしい風味に仕上げたまんじゅうです。



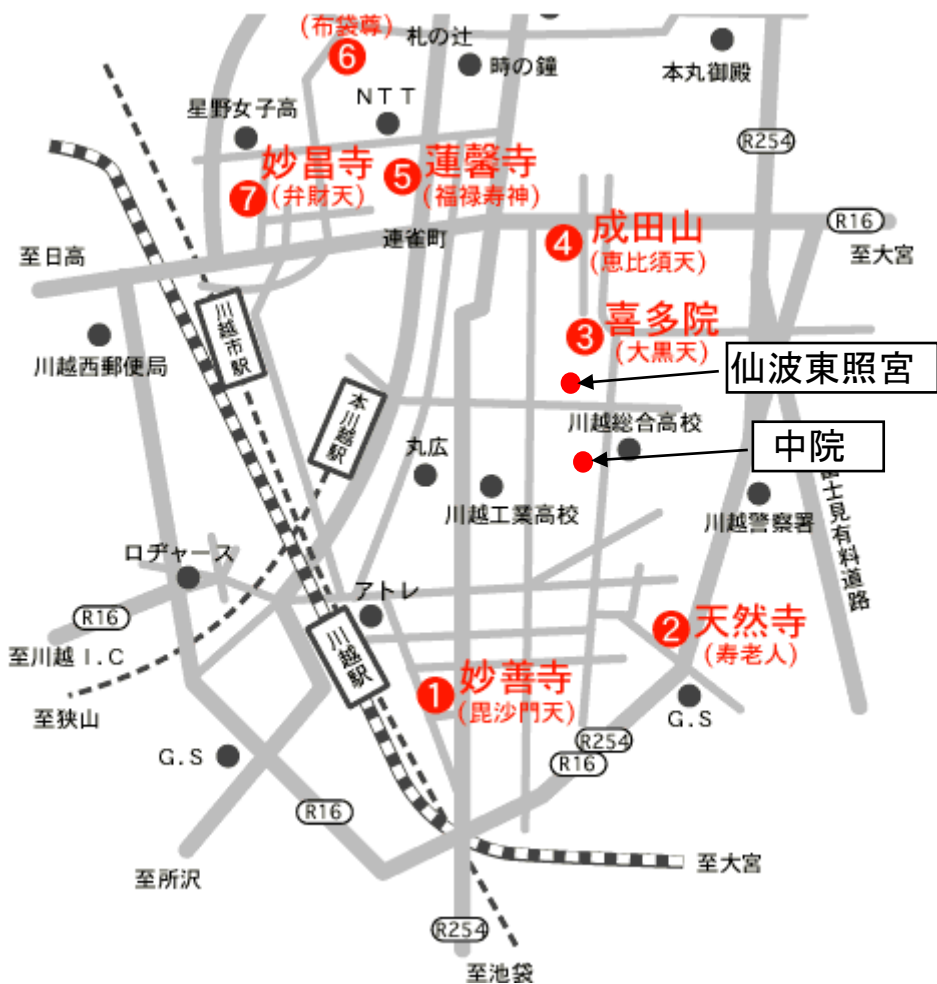
御朱印について

残念ながら、御朱印を頂けるのは 1 月 7 日までです。

当日は御朱印がすでに押してある色紙なら 1,000 円で購入できます。

なお、各寺にはスタンプが用意されていますので、七福神を回って集めるための台紙を用意します。

■七福神の起源（歴史） ヒンドゥー教の神である大黒を祀ることは最澄が始め。それが徐々に民間に広まり日本の土着信仰の神である恵比寿とセットで信仰されるようになった。平安時代以降、毘沙門天を恵比寿・大黒に加え三神として信仰されることが起こった。室町時代には仏教の布袋、道教の福祿寿・寿老人なども中国から入ってきてそれぞれに知られるようになり、人々は別々に信仰されていた7つの福の神を集め、七福神とした。ただし、当初は必ずしもメンバーが一定していなかったが江戸時代には、ほぼ現在の顔ぶれに定まった。



■見学場所簡単ガイド

<第1番:妙善寺(毘沙門天)> 毘沙門天は左手に持っている宝塔より無量の宝物を衆生に与えて福德を授け、右手の鉾は邪を払い魔を降す徳を示します。心には勇氣決断、くらしには財という、物心ともども福を施す神であります。



妙善寺は、天台宗に属する元中院の末寺で道人山三心院と呼ばれ、開山の仙波中院 28 世尊能法印が寛永元年に父母の追福の為この寺を建立したものです。

母の法名を妙善大姉と言ひ、この法名から寺の名が起こつたと言われていませう。

堂宇は天明 8 年の火災によって焼失し以後仮堂でしたが、昭和 5 3 年壇信徒の総力によって念願の再建が叶つたものです。

また、北側の菅原神社や六塚社も、やはり尊能法印が寺領に勧請したものでしたが、天明の大火によって後に現在の社地に移されたと言われていませう。

創建時の本尊は薬師如来でしたが、今では不動明王を本尊とし、脇には阿弥陀如来、観世音菩薩、毘沙門天が安置されています。

なお、境内には室町時代嘉吉元年 (1441) 契薫大姉逆修の年号を有する板碑供養塔、石造りの地藏尊 (元禄 6 年)、さつまいも地藏尊等があります。

<第2番:天然寺(寿老人)> 長頭、長髯、右手に杖を持ち、左手に長寿のしるしの桃を持っています。富財、子宝、諸病平癒とそのご利益は多岐にわたっておりますが、なんととっても長寿の神として信仰されております。



自然山大日院と号し、本尊大日如来 (金剛界) を安置。慈覚大師草創の地と伝えられておりますが、天文 23 年 (1554) 9 月開山栄海上人によって創建されました。境内には慈母観音像、六地藏尊等があります。

平成 3 年 5 月には新本堂・客殿・庫裡が完成し、寺観を一新しました。また、当寺は小江戸川越七福神霊場と武蔵国十三仏霊場になっております。

<中院>

天台宗別格本山「星野山 無量寿寺 中院」

中院創立の縁起は喜多院と全く同じで、天長7年(830)慈覚(じかく)大師円仁が建立了。元来星野山無量寿寺のなかに北院・中院・南院の三院があり、それぞれ仏藏院、仏地院、多聞院と称していたものである。鎌倉時代、尊海僧正によって再建され、日蓮が尊海僧正より恵心流の伝法灌頂を受け、東国580ヶ寺の本山の勅書を受けるなど隆盛を極め関東天台宗の本山となった。



当初の中院は現在の東照宮の地にあったが、寛永10年(1633)東照宮建設の折に現在地に移されたものである。

天海大僧正が喜多院(北院)の住職となるまでは、中院が無量寿寺の中心的な役割を果たしていた。なお、南院は明治初年に起きた廃仏毀釈により廃寺となってしまいました。南院遺蹟には、当時の南院にあった石碑や石仏を集めています。

【 境 内 】

- ・狭山茶発祥之地の碑：慈覚大師円仁が京都より茶を伝え境内で茶の栽培を始めた。その後、川越藩領の狭山丘陵で茶の栽培が広まった。狭山茶は元は「河越茶」といった。30年ほど前までは境内に茶畑が残っていた。
- ・加藤みきの墓：島崎藤村の義母・加藤みきの墓があり藤村は頻繁に訪れた。島崎藤村の妻となった加藤静子は川越出身で、藤村はその母であるみきとは大変仲が良く、茶道の師匠であった加藤みきに藤村が贈った茶室「不染亭」や、藤村書の「不染の碑」もある。
- ・日蓮聖人伝法灌頂之寺の碑：1253年(建長5年)日蓮が尊海僧正より恵心流の伝法灌頂を受けた碑。



<仙波東照宮>

徳川家康を祀ったもので、日光、久能山に次いで三大東照宮を名乗っています。



元和2年(1616)に薨去された徳川家康はいったん久能山に葬られたが、翌年久能山から日光山に改葬される際に、その途中天海によって喜多院で法要が行われ、同年にその地に天海によって東照宮が創建された。1638年(寛永15)の川越大火で焼失するが、徳川家光によって川越藩主の老中堀田正盛が造営奉行に命ぜられ、幕府によって再建された。江戸時代を通じ社殿や神器等全て江戸幕府直営であった。

本殿には木像の家康公像が祀られている。石鳥居は寛永15年(1638)に堀田正盛が奉納したもの。本殿のまわりには歴代の川越藩主が献燈した石灯籠が並ぶ。拝殿にある三十六歌仙絵額は国宝。

国の重要文化財：

本殿(附:宮殿、棟札)、瑞垣、唐門、拝殿及び幣殿、石鳥居、隨身門、三十六歌仙図額

残念ですが普段は公開されていません。

<第3番:喜多院(大黒天)> 大黒天は古代インドの闇黒の神で、仏教での戦闘神ですが大国主命を大国と混同させ、命のご神徳を合せ、糧食財宝が授かる神として信仰を得ました。くろ(黒)くなってまめ(魔滅)に働いて大黒天を拝むと大福利益が得られます。



天長七年(830)、慈覚大師円仁により創建された星野山無量寿寺が始まりとされる喜多院。慶長四年(1599)、二十七世を継いだ慈眼大師天海が徳川家康の厚い信頼を得、寺領四万八千坪及び五百石を下し、寺勢盛んとなりました。

寛永十五年(1638)の火災後の再建時には、江戸城内の「徳川家光誕生の間」が書院、「春日局化粧の間」が客殿として移築されました。現在、多くの文化財や正月3日の初大師・だるま市、五百羅漢などの見どころや行事があり、川越大師として親しまれ、参詣の方々が訪れます。

【慈眼堂】

慈眼堂は、慈眼大師天海をまつる御堂です。天海僧正は、寛永20年(1643)寛永寺において入寂されました。正保2年(1645)に徳川家光公の命によりこの御堂が建てられ、厨子に入った天海僧正の木像が安置されました。小高い岡の上にあります、この丘は7世紀初頭の古墳を利用し

ています。

慈眼堂の裏には住職の墓所があり、その中央に「南光坊 慈眼大師」の碑があります。南光坊慈眼大師とは、天海大僧正のことです。

また、墓所の中に板碑があります。

- ・**暦応の古碑**（県指定史跡）上部に弥陀の種子キリークを刻し、下部に 52 名の歴代の住職の名を刻している。住職の名を知る資料がないので、県の史跡に指定された。
- ・**延文の板碑**（市指定考古資料）高さ 276cm のこの板碑は川越市最大のもので僧 1、法師 2、沙弥（出家修行者である比丘（修行僧）になる以前の少年）32、尼 21、聖堂（喜捨を募ってから板碑が建つまでに亡くなった人）4 の合計 60 名が刻まれている。

<第 4 番: 成田山川越別院本行院(恵比寿天)> 恵比須様は「福の神」の代表。鯛を抱いた福々しい相好はなじみ深いものです。恵比須は、外国人を意味する言葉で、本来は異郷から来臨して人々に幸福をもたらす神です。漁村では海の神、農村では田の神、山村では山の神、都市では市神、福利を招く神として、商人からも深い信仰が寄せられています。



成田山本行院の開祖、石川照温上人（一心坊）は、両眼を失明し、前途の希望を失い何度も自殺を試みますが、遂に果たされませんでした。それは神仏が未だ己を見捨て給わぬ為であると信じ、成田山新勝寺にて苦行の末、両眼が見える様になったのであります。そして、不動明王の偉大な御威徳、大慈悲に一生を明王の為に捧げることを誓います。

その後、諸国巡歴の旅の途中、川越通町八幡神社境内に不動堂を建立し、ご本尊は成田山新勝寺の不動尊のご分霊を安置しました。嘉永 6 年、空堂となっていた久保町（現在の地）に本行院を再興し、前記のご本尊を奉還しました。

<第 5 番: 蓮馨寺(れんけいじ: 福祿寿神)> 福祿寿神とは、幸福、高祿、長寿の三徳を具えて、これを人



に与え、方位除災、商売繁昌、延寿福楽等のご利益を現わされる方でありますが、当山の尊像は右手に靈芝、左手に神亀を持たれ、癌や脳卒中を早く治しなさい、そうすれば、福祿寿が得られますと教えています。



天文十八年(1549)、川越城主、大道寺駿河守政繁の母君、蓮馨大姉は、民衆の心の安らぎの場として、当山を創建しました。開山は感譽存貞上人で、のちに大本山増上寺第十世に登られた方でした。徳川時代には、関東における“十八檀林[※]”の一つに列せられ、幕府公認の僧侶養成機関となり、多くの学僧を育てました。

呑龍堂に祀られる呑龍上人(1556~1623)は、各地を巡っては困窮する多くの人々を救い、貧しい家の子供達を寺に預かっては、勉学の機会を与え、諸々の相談事をうけては解決していったという、正に生きた仏として崇められた方でした。社会事業の先駆者であり、今日でも、靈験あらたかな仏様として、祀られています。また、新設の講堂は、あらゆる催事に広く活用され、集いの場としてご利用頂いております。地域の祈願所、心安らぐ集いの場として、当山は多くの方々に親しまれ、今日に至っています。

※関東における十八檀林：江戸時代初期に定められた関東における浄土宗の檀林(僧侶の養成機関・学問所)18ヶ寺をいう。

<第6番:見立寺(けんりゅうじ:布袋尊)> 布袋尊は中国唐代の禅僧で小柄で太鼓腹、大きな袋を担って各地を放浪し、吉凶を占い、福を施して倦むことがなかったといひます。また、未来仏たる弥勒菩薩の化身ともいわれ、昔から崇められてきました。



永禄1年(1558)後北条氏の川越城将政繁は、城下に一寺を建立して建立寺と名づけ、一族中の存貞和尚を小田原伝馨寺より招請して開山とし、のち見立寺と改めた。存貞和尚は、永禄6年増上寺第十世となったが、永禄9年見立寺に再住した。そして先に政繁の母が平方村に造営した蓮馨寺を、川越に移して両寺を兼帯した。(蓮馨寺の開山 感譽存貞上人と同じ)

天正 18 年（1590）豊臣秀吉の禁制書には、「武州川越蓮馨寺同門前見立寺」と記されている。蓮馨寺門前より当地に移転した年代、経緯など不詳であるが、おそらく、延宝年中（1670 年代頃）であると考えられる。

見立寺は文政 11 年（1828）、石原火事により類焼、さらに天保 11 年（1840）に焼失している。再度の火災により、古文書等も現存していない。現本堂は、明治 14 年（1881）に建立されたものである。

その他、当寺には、板碑（青石塔婆）二基、徳本上人名号碑、松平（松井）周防守家の阿弥陀如来坐像並藩主位牌などが現存している。

<第 7 番:妙昌寺 (弁財天)> 弁財天さまは、七福神唯一の女神で、弁舌、芸術、財福、延寿を授ける神として、古くから、商人や芸人などの幅広い人々の信仰を集めており、運を開き、福を招く女神です。



妙昌寺は、日蓮宗大本山池上本門寺の末寺として法眞山と号し、永和元年（1375）今から六百余年前、池上本門寺第四世（四代目の貫主様）大鷲妙泉阿者梨日山聖人により現在の幸町に開創され、開山は法眞院日意上人です。

諸堂は、旧多賀町及び本町にあり総門は旧江戸町にあったが、松平伊豆守が川越城を改修するため、当寺を現在の三光町の旧浅場孫兵衛侍屋敷跡地に江戸時代寛保元年（約 220 年前）に移築したものです。

平成四年三月に壇信徒念願の新本堂と客殿が完成し、寺観を一新しました。

以上